

ここが違う! 二藤部クラスの特長



1 一方的に「聴く」講義ではなく「考える」講義

聴くだけの講義では脳へのすりこみが弱く、知識の定着が薄いと考えています。私の講義では、いわゆるアクティブラーニングを目指していきます。義務教育にも導入することが決められている方法です。アクティブラーニングは、「主体的、対話的で深い学習」とも呼ばれ、端的に言えば、能動的に学習に取り組むということを意味しています。講義を聞くだけでなく、自分で考え積極的に講義に参加し、学習効果を上げられるようにします。私の講義は、講義中に受講生の皆さんにたくさん質問します。質問するといっても、名指して一人に答えてもらうわけではありませんので安心してください。全体に質問して、一人ひとり自分で考えてもらいます。自分で考え、法律を考える力を養いましょう。

2 実務もこぼす講師だからこぞできる! 実務のお話

私は平成17年(2005年)に行政書士開業し、約20年の実務経験があります。私のメインの業務は外国人関連の業務ですが、他にも相続手続きや会社設立、契約書の作成など、いろいろな業務を取り扱ってきていますから、講義では実務のこともお話できると思います。皆さんが「講義に集中していない」と感じるときは、積極的に実務の話もしていこうと思っていますので、そんなときは実務の話で一息ついてください。また行政書士試験合格後、どのような実務を行うかのイメージを持って学習できれば、学習のモチベーションもあがるでしょう。

二藤部クラス合格者からのメッセージ

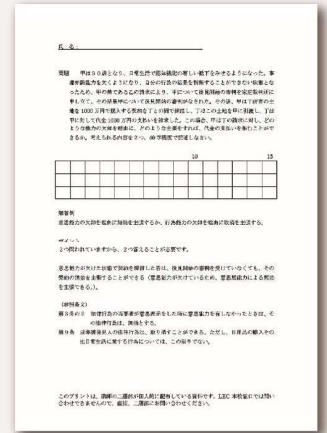
千葉本校で受講していたので、二藤部先生の講義を中心に受けていました。二藤部先生の授業は常に問いかけがありますが、これが自分で考えるトレーニングになったと思います。また実務もされている先生なので、普段どんな仕事をしているとか、こんな時はこうして対応していますとか、大変興味深いお話を講義の合間に話して下さったのが、開業後のイメージが浮かんでくる気が出たし、とても良かったです。一番印象に残っているのが、オリジナルの記述問題で宿題を出して下さっていたことです。先生が一人一人にアドバイスを入れた添削をしてくださり、これを繰り返すことで苦手だった記述の解答力を伸ばすことができたと感じています。



令和5年度合格
A.Gさん

3 二藤部講師オリジナル記述問題の宿題

行政書士試験では、40文字程度の法律文章を書かせる記述問題が3問出題されます。1問の満点は20点ですから、300点満点中60点と配点は大きく、記述対策は必須です。しかし、受講生の皆さんが記述対策として自分の書いた答案を誰かに採点してもらう対策をすることができるのは、模試等が始まる夏以降です。そこで、二藤部クラスでは、民法の講義が一通り終了した時点から、毎週1問ずつのペースで民法の記述問題の課題を出します。それを自宅に持ち帰り、40字程度の記述の答案を書きあげて提出してください。提出された課題は、回収して私が講評を書き加え得点をつけてお返しします。解説や講評を書き採点していますから、解答はもちろん解説や講評、参照条文を記した答案を配りますので、自分の答案と比べてみてください。記述は択一問題の知識が基礎となります。択一の知識がおぼえられていないと、なかなか記述の解答を出すのは難しいです。二藤部クラスで行う記述の課題を通じ、条文やテキストを再確認し、記述対策をしていきましょう。こちらの特典は、二藤部クラス(通学のみ)限定です。



二藤部クラス講義の様子

二藤部講師は水道橋本校・千葉本校を担当しています。LECのクラス間乗り入れ制度※により、どちらの校舎でもご受講可能です。講師の実務経験を交えた熱い指導で、本試験合格を目指しましょう。

※乗り入れ制度、講義スケジュールの詳細は、2025年合格目標行政書士パンフレット・スケジュール冊子をご確認ください。

